

経営比較分析表（令和5年度決算）

愛知県西尾市 西尾市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	22	対象	訓 方	救 臨 災 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
170,258	26,176	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
321	－	－
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
－	－	321
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
304	－	304

グラフ凡例 ■ 当該病院値（当該値） — 類似病院平均値（平均値） 【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （関係の明確・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
－ 年度	－ 年度	－ 年度

I 地域において担っている役割

西尾市民17万人の命を守る地域の中核病院として、急性期医療と急性期を脱した患者の在宅に向けた医療を提供していく役割を担うとともに、地域の開業医と連携し、地域完結型医療に取り組んでいます。また、災害拠点病院として、災害医療において地域の中心的な役割を担っています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

患者数が前年度比2.9%増加し、⑤入院患者1人1日当たり収益、⑥外来患者1人1日当たり収益ともに増加したため、②医療収支比率及び③修正医療収支比率がわずかに改善しました。①経常収支比率は、医療収益が約5億2,229万円の増加となった一方で、新型コロナウイルス感染症対策関係の国庫補助金が約5億4,777万円減少したため、依然として平均値を下回る状況となっています。その結果、⑨累積欠損金は前年と比較して増加しました。④病床利用率は、病床数を372床から321床へ削減したこと、入院患者数の増加により改善しました。⑦職員給与費対医療収益比率は依然として平均値より高い状態です。⑧材料費対医療収益比率は、平均値に近く推移しています。

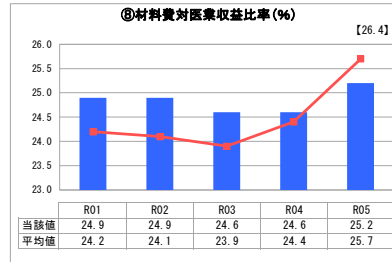
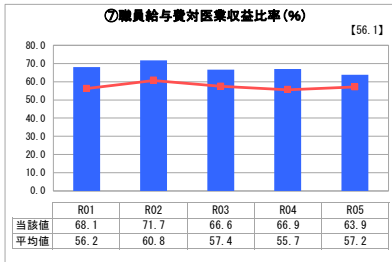
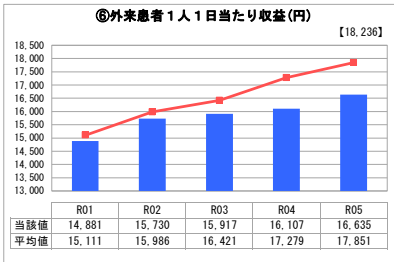
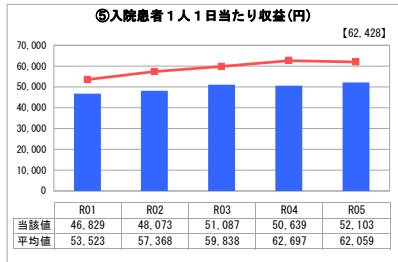
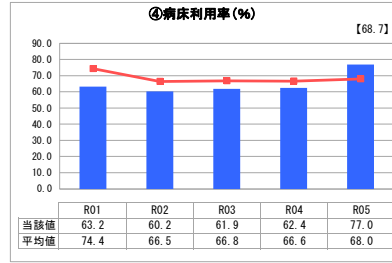
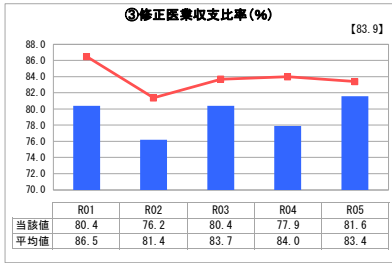
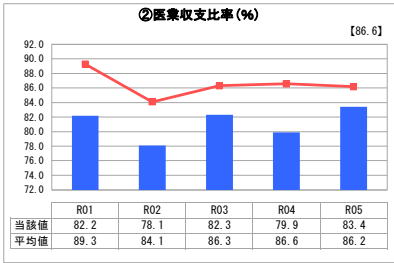
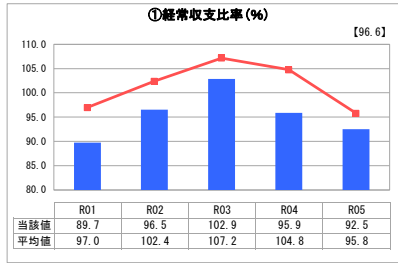
2. 老朽化の状況について

病院本体は平成元年度に建設され、建設から35年経過しており減価償却が進んでいます。②器械備品減価償却率は、令和5年度には高額機械の購入はありませんでしたが、令和4年度の放射線治療装置更新など、令和元年より高額な医療機器を継続して更新し、減価償却が進んだことにより、前年度から上昇しました。③1床当たり有形固定資産は、病床数を削減したことにより上昇しました。

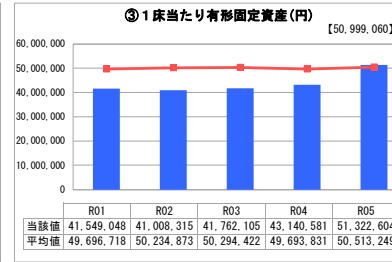
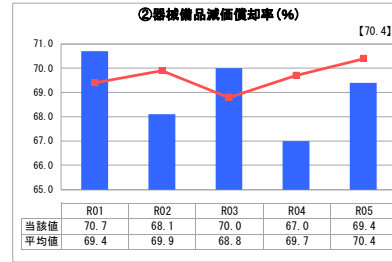
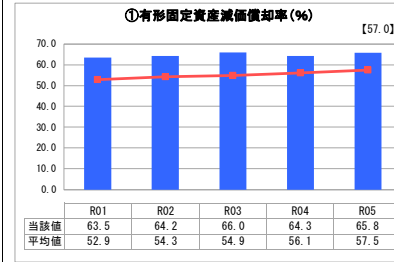
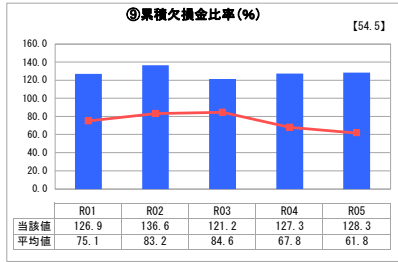
全体総括

本年度は、患者数の増加により医療収益が増加しましたが、それに伴う材料費の増加や新型コロナウイルス関係補助金の減少により経常収支比率は悪化しました。収益性の向上が課題となっており、職員給与費対医療収益比率の高さや施設の老朽化が財政健全性に懸念をもたらしています。また、依然として特定の診療科において常勤医師が足りていないため、大学医局への訪問や医師紹介会社の活用などに引き続き力を入れていきます。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。